

## 第4学年 総合的な学習指導案

日 時 平成21年11月5日(木) II校時  
児 童 男子19名 女子21名 計40名  
指導者 T1 白石 里美  
          T2 菅野 さと美(すこやかサポート)  
場 所 4年生教室

### 1 単元名 伝えよう 私たちの心

### 2 単元について

4年生は、「みんな生きている」を大きなテーマにして、いろいろな人々の生き方、その工夫や努力などを調べたり、伝え合ったりする活動をしている。1学期は、「中国を知ろう」で花巻と交流のある中国の文化について調べ、分かったことや感じたことを学級の人々に伝える等、異文化に触れる活動をした。さらに、4年生になってから、社会科ではすべての人が安心して暮らせるまちづくりについて学んだり、国語科では、点字について学習したりと、福祉について考える機会が増えてきた。そこで、本単元では、体に障害を持つ人が生活していくために、努力したり工夫したりしていることを調べて、その人のために自分たちにできることは何かを考え、分かったことや感じたことを相手に伝える活動をする。この活動を通して、相手の立場に立って考えようとする意識を高めていきたいと考える。

児童は、社会科でまちにあるバリアフリーについて学んだり、国語科で点字について学んだり自分たちなりに調べて発表したりする学習をしてきた。祖父母と一緒に暮らしている児童も多くお年寄りの困っていることを身近に感じている児童もいる。しかし、目や耳、体に障害を持つ人と直接ふれあう機会はほとんどなく、共感的に理解するまでには至っていない。

そこで、本単元では障害を持つ人々の生活について調べたことや感じたことを相手を意識して伝え合うということに重点をおいて、次のように学習を進めていきたい。「見つける」段階では、親子キャップハンディ体験で興味、関心を高め、各々に課題を見つけさせていきたい。「立てる」段階では、興味のある分野ごとにグループをつくり、調べたりその人のために自分たちにできることは何か考えたりしたことを学級の人々やお家の方に伝えることを目的として調べる計画を立てさせる。「求める」段階では、グループ毎の計画にそって、インターネット・書籍・インタビューや見学等の調べ活動を行う。その中で、ゲストティーチャーから実際に話を聞く機会をつくり、人から学ぶ体験を大切にしたい。児童の意欲が持続するように、ワークシートを工夫し、活動の反省や次時の課題を書かせたり、児童を励ましたりしていきたい。「まとめる」段階では、お家の方を招待して発表会を開くことを目標に、調べたことをもとに自分たちにできることは何かを考えさせる。そして、それをうまく相手に伝えるためにどうしたらよいか段階を踏んで話し合わせ、自分たちの言葉でまとめられるように支援していきたい。「広げる」段階では、学習シートを工夫し、お互いに伝え合えるように発表の視点と聞く視点を与え、他の発表を聞いて自分なりの質問や感想をもてるように育て

ていきたいと思う。

### 3 単元のねらい

体に障害を持つ人が生活していくために、努力したり工夫したりしていることを調べ、分かったことやその人のために自分たちはどんなことができるか考えたことを相手に伝えることができる。

#### 【課題発見力】

- ・体に障害をもつ人が生活していくために、努力したり工夫したりしていることに興味をもち、自分なりの課題を見つけることができる。

#### 【企画力】

- ・自分たちの課題解決に向かって、調べ方や発表の仕方を考え、見通しをもって活動を進めることができる。

#### 【実行力】

- ・自分たちの課題解決に向かって、グループの仲間と協力しながら、自分たちが考えた方法で追究し続けることができる。

#### 【情報活用力】

- ・自分たちの課題解決に向かって、インタビュー、インターネットや図書等から必要な情報を取り出したり、まとめに活用したりすることができる。

#### 【表現力】

- ・調べたことや思ったこと、考えたことを、自分たちが考えた方法で発表することができる。

### 4 単元の評価規準

観 点	評価規準
課題発見力	①体に障害をもつ人が生活していくために、努力したり工夫したりしていることに興味をもち、自分なりの課題を見つけ、理由も書くことができる。
企画力	①グループの人と話し合い、発表までの活動の計画を立てることができる。 ②発表会まで見通しをもって活動を進めることができる。
実行力	①自分たちが考えた方法で、調べることができる。 ②グループの仲間のよいところを見つけながら、活動を進めることができる。
情報活用力	①自分たちが知りたい情報を収集することができる。 ②自分たちが一番伝えたいことを考え、それに合った情報を選択しまとめることができる。
表現力	①自分たちが調べたことや考えたことを、相手に伝わるように工夫し自分たちの言葉で発表することができる。 ②お互いに発表し合って、考えたことや思ったことを文章に表現することができる。

## 5 単元指導計画（計28時間）

段階	時間	○ねらい・学習活動 【評価規準】	工夫と手立て
見 付 け る	(2)	<p>○目、耳、体の不自由な人がみんなと一緒に生活していくために、支え合ったり、努力したり、工夫したりしていることに関心をもち、自分なりの課題を見つけることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・祖父母が暮らしの中で困っていることを想起したり、体の不自由な人が困っていることを想像したりして、単元に関心をもつ。[1]</li> <li>・親子でキャップハンディ体験をする。[課外]</li> <li>・キャップハンディ体験の感想を話し合い、個人課題を決める。[1]</li> </ul> <p style="text-align: center;">【課一①】</p>	<p style="text-align: center;">【課題意識をもたせるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な祖父母の様子や、既習の点字やバリアフリーから想起させる。</li> <li>・キャップハンディ体験の感想をもとに、課題を考えさせる。</li> </ul>
立 て る	(3)	<p>○自分たちの課題解決に向かって、調べ方や発表の仕方を話し合い、活動の見通しをもつことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人課題をもとに、活動しやすいようにグループに分かれる。[1]</li> <li>・グループごとに、課題追究の順序や方法、発表の仕方等、計画を立てる。[2]</li> </ul> <p style="text-align: center;">【企一①】</p>	<p style="text-align: center;">【見通しをもたせるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを使用する。</li> <li>・おおまかな日程を提示する。</li> <li>・発表方法の例を示す。</li> </ul>
求 め る	(8)	<p>○自分たちの課題解決に向かって、グループの仲間と協力しながら、自分たちが考えた方法で追究し続けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書、インターネット、インタビュー等で課題を追究する。[7]</li> </ul> <p style="text-align: center;">【企一②、実一①②、情一①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べて分かったことをもとに、自分には何か一番伝えたいことは何かを個々に考える。[1]【表一①】</li> </ul>	<p style="text-align: center;">【追究意欲を持続させる工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートで毎時間の課題を明確にする。励ましの言葉を入れる。</li> <li>・ゲストティーチャーとの出会いを設定する。</li> </ul>
ま と め る	(11) 本時 1/11	<p>○調べたことや思ったこと、考えたことを、自分たちが考えた方法でまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番伝えたいことをグループで話し合い、まとめる。[1]【実一②、表一①】</li> <li>・みんなに伝えるためには、発表の方法</li> </ul>	<p style="text-align: center;">【自分なりの表現をさせる工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番伝えたいことを考えさせ、発表内容の焦点化を図る。</li> <li>・一番伝えたいことが伝わるように、聞き手を意識して方法や順序を工夫させる。</li> </ul>

		と順序をどうしたらよいかグループ毎に話し合う。[2] 【企一①、実一②、情一②】 ・話し合ったことをもとに、まとめの作業をする。[5]【企一②、実一②】 ・グループ毎に、発表会の練習をする。[3]【企一②、実一②】	・ワークシートを活用し、段階的に話し合わせる。
広げる	(4)	○調べたことや考えたことを伝え合うことができる。 ・発表したり、他のグループの発表を聞いたりして、自分なりの感想をもつ。[2]【表一①】 ・活動を通して、考えたことや思ったこと等を文章に表す。[2]【表一②】	【伝え合う工夫】 ・発表する視点と聞く視点を与える。 ・感想を書く時間を与える。 ・ゲストティーチャーへのお礼の手紙等、書く目的を明確にする。

## 6 本時の学習

### (1) 仮説とのかかわり

仮説2：自分なりの表現をさせるための工夫にかかわって

<内容をより分かりやすくまとめさせる>

グループ毎のまとめる内容が焦点化されることをねらい、家族への招待状に書く内容を考えさせる。今後、発表の仕方の工夫につなげていく。

<話し合いのさせ方>

前時に、「自分にできること」をもとに「一番伝えたいこと」を考えているので、個々の考えを出させ、それらをもとにグループ内で話し合わせる。一番伝えたいことがお家の人にも伝わるか、インパクトのある言葉か等の視点を与え、全体で交流した後、もう一度グループ毎に話し合わせることにより、自分たちなりの表現を考えさせる。

### (2) 学習のねらい

障害を持つ人が生活をしていくために努力したり工夫したりしていること等、調べたことをもとに、自分たちは何ができるかについて、グループ毎に一番伝えたいことをまとめることができる。

#### 【実行力】

- ・グループの仲間のよいところを見つけながら、活動を進めることができる。

#### 【表現力】

- ・自分たちが調べたことをもとにして考えたことを、相手に伝わるように工夫し自分たちの言葉で発表することができる。

(3) 本時の展開

段階	学習活動・予想される児童の反応	・留意点 ◇支援 ☆評価
導入 5分	1 学習のめあてをつかむ。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             しょう待状に書く、グループのしょうかい文を考えよう           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの活動を想起させる。</li> <li>・お家の人に、発表会の案内を出すことを確認し、何を紹介文に載せたらいいか、ぜひ見たい、聞きたいと思わせる案内にするには、どんな工夫が必要か考えさせ、課題を把握させる。</li> </ul>
活動 25分	2 グループ毎に一番伝えたいことを話し合う。  3 グループ毎に考えた言葉を発表し、全体で意見を出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの思いが伝わってくるようだし、発表会が楽しみになるのでいいと思います。</li> <li>・少し意味が分かりにくいので、もう少し具体的な言葉を使った方がいいと思います。</li> </ul> 4 グループ毎に、一番伝えたいことをどんな言葉で表すかももう一度話し合う。  5 グループ毎に決まった言葉を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点（グループの思いをできるだけ短く、見たい聞きたいと思わせる言葉）を確認し、グループ毎に話し合わせる。</li> <li>・個々の考えを出し合ってから、話し合わせ、決まったら、短冊黒板に書き込ませる。</li> <li>・話し合いがスムーズに進むように、ワークシートを活用する。</li> <li>・グループ毎に考えた言葉を、理由も一緒に発表させる。</li> <li>・どんなまとめ方がよいか、視点を確認しながら、お互いに意見を出させる。</li> </ul> <p>・さらによいものを目指して、話し合わせる。</p> <p>◇T1、T2 共に、話し合いが進まないグループには、目的を確認しながら子ども達の考えを整理してやる。</p> <p>☆自分たちが調べたことをもとにして考えたことを、相手に伝わるように工夫し自分たちの言葉で発表することができたか。</p> <p style="text-align: right;">（観察、短冊黒板）</p>
まとめ 15分	6 次時の活動を確認する。 7 本時の活動の反省を書いたり、発表したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会にむけて、意欲化を図る。</li> <li>・本時の活動を振り返るとともに、次時への見通しをもたせる。</li> </ul> <p>☆グループの仲間のよいところを見つけながら、活動を進めることができたか。</p> <p style="text-align: right;">（ワークシート）</p>